

科目名 Course Name	幼児理解と教育相談 Educational Consultation based on Appreciation			ナンバリング No.	K3-002		
年次	2年	期別	前期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	秋山真奈美						
連絡先(質問等)	講義棟3階研究室かメールで対応。オフィスアワーは火・土・授業・会議時間を除くものとする。						
必修/選択	選択(幼稚園教諭養成課程必修)						
関連 DP	DP3,DP4,DP5						
授業の概要と 到達目標	<p>幼児についての理解を多角的に深めるための視点を育む。教師の立場からの関わりの意義を理解し、子どもへの援助や保護者支援について、教育相談の具体的な手法を学ぶ。</p> <p>そこで幼児教育に関わる者として、</p> <p>①幼児の心身の各機能の発達について詳しく学習し、幼児の発達や学び、及びその過程で生じるつまづきに気づく視点とその対応・指導法を身につけることを目標にする。</p> <p>②教育相談や保護者支援の方法について、基礎的な理解を図り、実践に繋げることができるようにする。</p>						
授業の方法	<p>視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。アクティブ・ラーニングを行う側・仕掛ける側両方の知見を得るためのディスカッションを含む。単元の終了ごとに小テストを行う。</p> <p>好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。</p>						
学習成果	L01	<p>①乳幼児期の子どもたちの発達の様相が総合的に掌握でき、バランス良く幼児期の個人および集団の姿をイメージ・記述できる。</p> <p>②乳幼児が理解しやすい関わり方・援助の仕方について、色々な方法を想定できる。</p> <p>③基本的な生活習慣の躰の方法や幼児期の遊びの意義について、理論的枠付けを基に第三者に具体的に説明できる。</p> <p>④保護者からの発達相談に対して、専門的な知見に基づいた支援ができるだけの知識と心得とを身につけている。</p>					
	L02						
	L03						
	L04						
課題に対する フィードバック	小テストは実施翌週に返却する。学生はその問題をヒントに期末考査の論述試験対策を行う。自発的学習者には随時模擬論述の添削を行う(ただし第15週まで)。						
教科書/ 参考図書	教科書:「保育の心理学」本郷一夫[編](建帛社)。および「子ども家庭支援の心理学」本郷一夫[編](建帛社)。「発達心理学」・「子ども家庭支援の心理学」に共通使用であるので、新規購入の必要は無い。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。						
履修上の留意点 やルール等	講義はもとより、ディスカッションや教育実験に対して主体的且つ真剣に取り組むことを期待する。私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。教育を志す者として、真剣に受講すること。事前・事後学習時間の目安は各回180分相当とする。						
担当教員の 実務 経験							

評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。疑問に思ったことを臆さずに質問できるとたいへん好ましい。ディスカッションへの積極的姿勢を評価したい。	15			
レポート/作品	「実習現場で見かけた園児の問題行動とその対処」について論述。記述に客観性とバランスの良さ、アクティヴ・ラーニングを経た上での視点があることを期待する。	20			
発表					
小テスト	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。	5			
試験	学期末論述試験を実施する。学習成果①～④が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。	60			
その他					
合計		100			

回数	授業計画	
1	授業内容	授業の方法と計画の説明 幼児理解の意義 教育相談・発達相談支援とは
	事前・事後学習	担当者が用意したワークシートを基に1年次の幼稚園・保育所実習での幼児との関わりを振り返り、自分に必要な学習要件を点検する。
2	授業内容	教育相談の進め方: 構造化 カウンセリングマインド 子どもの保育とともに行う保護者の支援 支援ニーズへの気づきと多面的な理解
	事前・事後学習	日常生活における相談場面を点検し、自分の関わりにおいて必要な構造化を実践に移す。小テストに備える。
3	授業内容	身体と運動の発達: 身体の発達 運動能力の発達 運動とこころの発達との関係
	事前・事後学習	幼児期の身体機能の発達をまとめ、要支援事例を想定する。
4	授業内容	身体と運動の発達: 基本的な生活習慣の意義とその体得支援法 保護者への助言の仕方
	事前・事後学習	幼児期の基本的な生活習慣の発達をまとめ、要支援事例を想定する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
5	授業内容	身体と運動の発達: 発達におけるあそびの意義 うまくあそべない子への対応
	事前・事後学習	幼児期のあそびの発達をまとめ、要支援事例を想定する。
6	授業内容	身体と運動の発達: 身体動作面で気になる子への支援 観察記録を活かす
	事前・事後学習	幼児期の身体動作の発達をまとめ、要支援事例を想定する。小テストに備える。
7	授業内容	認知発達と学習: 子どもの知覚の世界 子どもの描画能力の発達 描画から心を知る
	事前・事後学習	幼児期の知覚の発達をまとめ、要支援事例を想定する。レポート提出の準備をする。
8	授業内容	認知発達と学習: 幼児の自己中心性とは 記憶の発達と知識の発達 【レポート提出】
	事前・事後学習	幼児期の認知と記憶の発達をまとめ、要支援事例を想定する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補う。
9	授業内容	認知発達と学習: 思考の発達段階 子どもの問題解決 心の理論と集団生活
	事前・事後学習	幼児期の思考の発達をまとめ、要支援事例を想定する。小テストに備える。
10	授業内容	言語の発達: ことばの発達 ことばの遅れに対する支援
	事前・事後学習	幼児期のことばの発達をまとめ、要支援事例を想定する。小テストに備える。
11	授業内容	情動の発達: 子どもの情緒の特徴 情緒の発達を促すために
	事前・事後学習	幼児期の情緒の発達をまとめ、要支援事例を想定する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。

12	授業内容	欲求・動機の発達:意欲的な学びの支援 欲求不満耐性を育む
	事前・事後学習	幼児期の意欲の発達をまとめ、要支援事例を想定する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
13	授業内容	仲間関係の発達:社会的スキル 社会性・道徳性の発達を育む 学級経営と小集団
	事前・事後学習	幼児期の社会性の発達をまとめ、要支援事例を想定する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
14	授業内容	性役割の発達:ジェンダー 役割期待 トランスジェンダー児への対応
	事前・事後学習	幼児期の性役割の発達をまとめ、要支援事例を想定する。返却された前回小テストを用いて、失点部分の学習を補うと共に、小テストに備える。
15	授業内容	パーソナリティの発達:個々の子どもの性格の理解 観察法と心理検査法を活かす
	事前・事後学習	これまでの授業の総まとめを行い、期末試験に備える。